

会議・視察報告

第3回太平洋経済会議

ERINA調査研究部部長代理 新井洋史

2009年7月25日、26日の2日間、ウラジオストク市（ロシア連邦沿海地方）において、第3回太平洋経済会議（The Third Pacific Economic Congress）が開催された。沿海地方行政政府が主導して実施しているもので、2007年から毎年この時期に開催している。実際の会議自体は7月25日で、7月26日はロシア海軍記念日の記念行事見学などのプログラムとなっている。以下では、初日の会議について報告する。

会議は、全体会議（13:00～15:00）と4つの分科会（16:30～19:30）から構成されていた。分科会はそれぞれ別々の会場で開催された。配布された会議参加者名簿によれば、参加者は300名弱であり、外国からの参加者としては日本が最も多く参加していたようである。筆者は、前回の太平洋経済会議にも参加したが、参加者の顔ぶれから、より一層「沿海地方の会議」という色彩が強まったように感じた。

全体会議は、「アジア市場におけるロシアのポジショニング」というテーマで行われた。冒頭、プーチン首相、ミローノフ連邦院議長からのメッセージが披露された後、セルゲイ・ダリキン知事及びエリミール・グルバコフスカヤ国家院保健委員会副委員長があいさつを行った。開会セレモニー終了後、セルゲイ・ダリキン知事、ウラジーミル・クヴィント教授（モスクワ国立大学経済校金融戦略講座主任）、アンドリュー・ブッシュ氏（モンリアル銀行金融グループ銀行部門エコノミスト・ストラテジスト）、ミハイル・シネリン氏（国家企業「開発・対外経済活動銀行」副会長）及び齋藤大輔氏（ロシアNIS貿易会ロシアNIS経済研究所研究員）が順次、発言した。

ダリキン知事は「アジア市場の転換下における沿海地方の2025年までの発展戦略」と題して発表を行った。その中で、沿海地方の重要戦略として、化石燃料加工センターの構築、運輸・ロジスティクス機能強化、都市機能の強化、国内市場志向産業の強化を指摘した。特に、化石燃料の加工に関しては、ナホトカ近郊に計画されている石油精製・石油化学工場や、7月31日のハバロフスク～沿海地方間天然ガスパイプライン起工式などを事例として挙げながら、ロスネフチ、トランスネフチ及びガスプロムの3社が合計2兆ルーブルもの投資を行う計画であることを強調した。

クヴィント氏は、既存の「発展途上国」、「エマージング市場」などの定義には問題があるとして、独自の定義による「形成中市場（エマージング市場）」を提起している。ロシアを含めたこれらの国に共通しているのは「水」資源が重要であること、汚職が平等を阻害していることなどを指摘した。その上で、科学技術潜在力を活用すべきであると述べた。ブッシュ氏は、中国やインドの最近の経済情勢分析を紹介しつつ、今回の経済危機においてBRICsは輸出依存型のもろさを示したと結論付けた。米国の経済回復は予想より早いかもしれないとの見方を示しつつ、問題はドルの信認がどうなるかであり、これには中国、インド、ロシアの外貨準備も絡んでくる点を指摘した。シネリン氏によれば、開発・対外経済活動銀行（略称：対外経済銀行）は、極東の資源プロジェクトを有望視しているほか、スホイの旅客機プロジェクトなどにも融資を行っている。中国の国有銀行や日本の大手各行などとも協力関係にある。今後、地方自治体が行う上下水道やごみ処理などのプロジェクトへの協力を強化する方針であり、10月から希望自治体の募集を行う予定である。齋藤氏は、近年日口間の貿易額が急速に増加してきたことを紹介したうえで、さらなる経済関係強化には物流の円滑化が欠かせないことなどを指摘した。

全体会議終了後は、4つの分科会が開催された。それぞれのテーマは、「燃料エネルギー産業と石油ガス精製：市場発展の予測と主要プロジェクト」、「極東の運輸ロジスティクスシステムとトランジット輸送：成長と発展の展望」、「人々に魅力的な都市＝未来の都市 アジア太平洋地域における都市化」、「金融及び実物経済セクター：競争の可能性と現存する協力の諸問題」であった。会場は市内に分散しており、筆者は極東大学図書館で開催された運輸分科会に参加した。

分科会のモデレーターは、極東海運研究所のヤロスラフ・セメニヒン所長が務めた。冒頭、主催者を代表して沿海地方行政政府のイーゴリ・フルシチョフ産業運輸部長が挨拶を行い、引き続き同氏が沿海地方の運輸部門の概況を説明した。その後、ウラジオストク商業港のアレクセイ・トカチェンコ戦略発展部長、「APL CIS社」のウラジーミル・カシタノフ極東支社長、「ウラジオストクヴェネシトランス社」

のタチアナ・コンコ社長、極東海運研究所のミハイル・ホロシャ海運振興部長らの地元関係者、さらには韓国交通研究院のコン・ヨンイン北東アジア北朝鮮交通研究センター長及び筆者の2名が外国からの参加者として発表を行った。全体を通じて、最も印象に残ったのは、運輸分野、中でも特にトランジット輸送に関わる法制度の不備を何人も発言者が指摘していたことだ。会議での議論の要点は何かの形でモスクワの連邦政府に伝えられるはずだが、是非、現場の声を踏まえた政策が展開されて欲しいものである。

ウラジオストクでは、2012年秋のAPEC首脳会合開催に

向け、さまざまなインフラ整備が進んでいる。この「太平洋経済会議」も一連の流れの中で重要な役割を果たすべき会議のはずである。主催者の沿海地方行政府もそのように位置付けていると思うが、現実には縮小傾向にあるように感じられる。インフラ整備を進めることだけが、国際拠点都市に向けての準備ではないはずである。2年連続参加した者として、この会議には少し思い入れも湧いてきている(前回会議については、ERINA REPORT vol.84において、厳しい評価を含めて報告した)。次回、並びにそれ以降の会議がより充実したものになることを期待したい。

会議HPアドレス <http://www.pacific-congress.ru/>